

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0471400192
法人名	NPO法人のんびりすみちゃんの家
事業所名	すみちゃんの家
所在地 (電話番号)	宮城県東松島市新東名4丁目10-10 (電話) 0225-86-2341
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成19年10月9日

【情報提供票より】 平成19年9月15日

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 4 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	8

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独○	○新築/改築
建物構造	木造	造り
	2階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円)	無○		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(9月15日)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86 歳	最低 79 歳	最高 100 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐幸医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JRの駅から徒歩3分の閑静な住宅地に、NPO法人経営のグループホームがある。街並みに調和した木造2階建てのホームで、自然素材をふんだんに使った家庭的なホームである。代表者はボランティア友の会や宅老所など地域の福祉活動に幅広く励んでいる、介護の道30年のベテランである。いつまでも「ともに」「自分らしく」「普通の暮らし」という、ホーム独自の理念の実現に努めている。生涯「その人らしい生活」を送れるようにと、フットケアに力を入れ、ホームでは素足で生活できるように工夫している。入居者の中には、100歳を迎えた女性も元気に過していた。代表者は今春、社会福祉法人でケアハウス等を設立、多機能的に地域福祉の向上をはかり、地域の期待に応えようと努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の主な改善課題の救命救急訓練は年1回実施しており、防災マニュアルは火災、地震、緊急時等の種別に作成されていた。ただ、夜間想定避難訓練はまだ実施されていないので、次回には実施して頂きたい。重要事項説明書等の相談苦情の受付には、東松島市や国民健康保険団体連合会の窓口や電話番号が記載されていた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員で取り組み、ケアを振り返り、検討・改善の機会と捉えて対処していた。自己評価で気づいた課題は、ケアに反映できるように評価結果と改善方法を職員全員で検討し実施している。高齢者の虐待防止に関する研修会等外部研修にも積極的に参加し、ケアの質の向上に役立てようと努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は入居者、家族、区長、保健推進委員、東松島市、ケアマネージャー、管理者、リーダーの8名で構成し、2ヶ月に1度開催され、自己評価の内容説明や外部評価の結果の報告などが行われた。ケアの質の向上のため、他のグループホームを知ることも大事と見学や行事に参加する移動研修も行っている。今後は課題の改善経過のモニタリング等も期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情等はケアの質を改善する機会と捉え、家族等の面会時や家族会等で意見や不満、苦情等を聞くようにしている。家族からは入居者の居室に他の入居者が間違っ入るなどの苦情があったが、即時各自の居室のドアに名札や花の絵、暖簾など工夫して、今では間違っ入室することはなくなった。尚、職員の異動はホームの新聞などで公表し、家族等に周知してほしい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>東松島市主催の防災訓練に参加し、地域の人々と一緒に避難所の確認や炊き出しなどを行って、地域の一員として活動している。入居者は各自の地域の敬老会に参加し、地域の人々との交流を深めている。代表者の住いも近くにあり、緊急時には電話すれば地域のボランティア等も駆けつけてくれるほど、地域との連携がはかられている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「のんびり・共に・楽しく」をホーム独自の理念とし、その人らしい生活を維持するために、フットケアに力を入れ、足浴やオイルマッサージ、電気マッサージ等を活用している。地域密着型サービスとしての理念も加味するよう検討している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新任研修や毎月の勉強会等で職員の理念の共有を図っている。ミーティングではケアの事例で理念に添ったケアかどうか、理念に添ったケアにするためには、どのように取り組むべきか等を検討し、日頃のケアに生かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	東松島市主催の防災訓練に地域の一員として参加し、消防訓練や炊き出しなどを地域の人々と一緒に行った。入居者は各自の地域の敬老会に参加し、地域の人々との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価はホームのケアを振り返り、社会や地域から求められていることを把握・検討し、改善すべき点、取り組むべきことを明らかにする良い機会と捉えている。自己評価の課題、外部評価の課題等を職員全員で検討し実施している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は入居者、家族、区長、保健推進員、東松島市、ケアマネージャー、管理者、リーダーの8名で構成され、2ヶ月に1度開かれている。自己評価の内容の説明や外部評価の結果の報告等がなされ、他のホームへの移動研修も行われた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	東松島市主催の研修や防災訓練への参加、ケアプラン作成等への助言など連携を密にしている。民生委員の研修の受け入れや認知症の勉強会として、実習生の受け入れも行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の健康状態や受診については、電話で家族と連絡を取り合っている。生活の近況やホームの行事等は毎月ホーム独自の「連絡確認表」を用いてモレがないように記録して、家族会や手紙、「すみちゃんの家新聞」等で定期的に家族等へ報告しているが、異動については記載がない。	○	今春、社会福祉法人「はまなすの里」を立ち上げ、ケアハウスや認知症高齢者通所介護に3人、宅老所に1人と職員の大幅な異動が行われた。引継ぎは適切に行われたが家族等への報告は新聞等には記載されていなかった。家族等の安心を得るためにも、ぜひ新聞でも公表してほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見や不満、苦情等はホームのケアを改善する良い機会と捉え、家族の面会時や家族会等の機会を見つけ、意見や不満、苦情等を伺って職員で協議しケアに生かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今春立ち上げたケアハウスに3名、宅老所へ1名と4名の職員の異動が行われた。入居者との馴染みの関係が継続するように、介護主任から新任の職員へ入居者の生活歴等の情報や個別ケアの方法を引継ぎ指導しているが、職員の異動について課題がある。	○	ケアハウスの立ち上げにより、職員の異動が大幅であったが、入居者の引継ぎは適切に行われていた。しかし本人や家族の馴染みの職員のケアが得られない心理的な不安は隠せず、今後はできる限り職員の異動は最小限に行ってほしい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修はリーダーが中心にあたり、現任への研修は毎月1回法人内で勉強会を開催して自己研鑽に努めている。経験年数や職種に応じ外部研修の受講も行っている。今後は社会福祉法人のはまなすの里と協力して合同の勉強会の開催を検討している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県認知症高齢者グループホーム連絡協議会に加盟し、中央ブロックで情報交換や移動研修等行いサービスの質の向上に努めている。みやぎ宅老連絡会にも加盟し、相互扶助と勉強会等をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する前に必ずホームを見学してもらい、他の入居者や職員と過して馴染んだ上、入居してもらっている。居室には本人が使用していたタンス等の家具や寝具等を持ち込み、入居前の雰囲気を少しでも醸し出すように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は人生の先輩から料理や洗濯物のたたみ方等生活の知恵や様々な知識等を学んでいる。季節の郷土料理の作り方や洗濯物をたたんでたたき皺を取る方法などを教えてもらったり、目の不自由な方が針に糸を通して繕い物をするなど感心させている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の24時間シートを作成し、日常の会話やケア等で姿や気持から本人のニーズを把握するように努めている。個々のニーズをケアプランに生かすよう、毎日変化に注意し観察している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式で本人のニーズの把握に努め、個々に応じたケアができるようにカンファレンスを行い、ケアプランを作成している。ケアの職員は担当制で入居者を記録し、ケアマネージャーが本人や家族等の関係者と話し合い、本人がよりよく暮らせるようにケアプランをまとめている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にケアプランの更新をしている。ケアプランを評価し、課題が達成されていない場合には、本人の身体状況や実現の可能性、本人や家族の希望や意向を検討して、目標や期間、ケアの方法を修正して、随時ケアプランの見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	専門医やかかりつけ医の受診の付き添いは、原則家族が行うことになっているが、都合の悪い時には職員が代行している。スーパー等への買い物や美容院や墓参り等への外出希望の時には、本人の希望に添えるように努めている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や専門医の受診は家族の付き添いが原則で、その際ホームでの生活を記録した「受診時連絡用紙」を持参してもらい、受診の結果を家族に報告してもらっている。地域の協力医の往診も可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方については、グループホームの方針を口頭で説明し本人や家族の納得を得た上でホームでの生活の継続をお願いしている。入居者の高齢化や重度化が高くなるので関係医療機関との連携を深め、家族や訪問看護との協力体制を整え対応しようとしている。「グループホームで安心して暮らし続けたい」との要望があれば終末期のケアを検討している。	○	ケアの統一や方法、告知などの有無等は、将来誤解を招く恐れがあるので、文書で行ってほしい。ホームには看護師がおり、地域の協力医の往診も可能で、家族の協力等を得て、実現できるよう検討して頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室に入る時にはノックして声がけし、許可を得てから入室している。呼びかけにはさん付けしている。トイレに誘導する時は他の入居者に気づかれないようにし、失禁の時はトイレに誘い、トイレから浴室へ入り、温かいタオルで拭いている。介護記録などの個人情報は目に触れないように保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中に遊びながらのリハビリテーションなど、夕方は入浴などと日課を一応設けてはいるが、本人の希望で散歩や買い物等の外出、趣味の民謡鑑賞などを行っている。体調を見ながら、できるだけ本人のペースで過せるように工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材で行事食などを作り季節を感じられるようにしている。本人の力量に応じ、調理や味見、後片付けなどを行ってもらい、職員と一緒に食事を楽しんでもらっている。食事介助の必要な人にはさりげなく行い、食べこぼしの人にも気兼ねなく食べられるように工夫している。部屋食も行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望や体調、生活歴を考慮し、入居者の自宅での生活リズムに合せ、入浴は毎日夕方行って喜ばれている。家族アンケートでも、身体の隅々まで綺麗にしてくれ、行き届いていると感謝されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の力量にあわせ、裁縫の得意な人には雑巾作り、料理の得意な人には調理の手伝いや味見、歌や踊りの好きな人には誕生会や夏祭りなどに披露してもらい、喜んでもらっている。農家の出身者や園芸の好きな人には、野菜摘みや花の水遣りなどをしてもらうようサポートしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の支援は入居者が希望した時、天候や本人の体調を考慮して行っている。近くに仙石線の踏み切りや交通量の多い県道が走っているため、安全に注意しながら毎日の散歩やスーパーへの買い物、美容院への出掛けなどを行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることが身体拘束であると、日中は施錠することはしていない。無断外出の際困らないように、散歩の時地域の宅老所で休憩している。お茶を飲んだりして習慣付けして、万一の無断外出にも、入居者が宅老所に向って歩くよう工夫している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	東松島市主催の防災訓練に、スタッフが地域の一人として参加している。前回外部調査で指摘のあった防災マニュアルは、火災や地震、緊急時ごとに作成されていた。9月に事業所としての避難訓練をしているが夜間想定は行っていない。備蓄もあり、緊急時には地域の宅老所やボランティアの協力が得られるようにしている。	○	前回の外部評価の課題である、夜間想定避難訓練はまだ実施されていない。夜間は少ない職員で対応しなければならず、入居者の混乱を避けるためにもぜひ実施するようお願いしたい。防災マニュアルを周知し職員の対応の共有を図り、緊急時には冷静に行動し入居者が安全に避難できるようにしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みや食習慣、身体状況に応じ食べやすいよう食事形態を工夫している。24時間シートを用い、食事や水分の摂取量を数字で表わし記録し観察している。水分は1リットルのペットボトルを用いチェック表に記載している。体重の減少の方には、補食をおやつで提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾品や花で飾られ季節感を感じさせている。床暖房があり掃除はモップを使わず入居者の作った雑巾を使い雑巾かけをして、素足で過せるように工夫している。ホールには和室の小上がりがあり、堀コタツで素足で生活できるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室7室、洋室2室の居室の入口にはのれん等や名札をつけているが、名前を知られたくない時は、花のアプリケをつけている。馴染みのダンス等の家具や寝具を持ち込み居心地よく生活している。配偶者の遺影や位牌、仏壇等を持ち込み、毎日水やお茶をあげてお参りをしている入居者もいる。		